

目次

イントロダクション

ビジョン・バリュー	1
ソニーフィナンシャルグループの概要	2
財務・非財務ハイライト	4
CEOメッセージ	6

戦略・レビュー

ソニーフィナンシャルグループ	
中期経営計画の進捗	10
ERM・ESR	13
生命保険事業	14
損害保険事業	16
銀行事業	18

SFGの価値創造

サステナビリティ	20
TCFD提言に沿った気候関連情報の開示	25
ステークホルダーとのかかわり	28
役員一覧	34
コーポレートガバナンス	36
リスクガバナンス	37
コンプライアンス	40

コーポレート・セクション

会社概要・株式情報	44
グループ各社の概要（主要子会社）	45

資料編

事業概況・事業系統図	46
財務ハイライト	47
SFGI連結財務諸表	48
連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項	56
注記事項	60
セグメント情報	78
自己資本の充実の状況等について	81
その他財務データ	105
報酬等に関する事項について	107
用語集	110
開示項目一覧	113

編集方針

本誌は、保険業法第271条の25および銀行法第52条の29に基づいて作成したディスクロージャー資料（業務及び財産の状況に関する説明書類）です。SFGIでは、掲載項目の整理・検討にあたっては、経済産業省の「価値協創ガイダンス」を参照しています。



社名などの略称表記

本誌では、社名などの表示に次の略称を使用している箇所があります。

ソニーフィナンシャルグループ	SFG
ソニーフィナンシャルグループ株式会社	SFGI
ソニー生命保険株式会社	ソニー生命
ソニーライフ・コミュニケーションズ株式会社	ソニーライフ・コミュニケーションズ
ソニーライフ・ウィズ生命保険株式会社	ソニーライフ・ウィズ生命
ソニー生命ビジネスパートナーズ株式会社	ソニー生命ビジネスパートナーズ
ソニー損害保険株式会社	ソニー損保
ソニー銀行株式会社	ソニー銀行
ソニーペイメントサービス株式会社	ソニーペイメントサービス
ETCソリューションズ株式会社	ETCソリューションズ
SmartLink Network Hong Kong Limited	SmartLink Network Hong Kong
ソニー・ライフケア株式会社	ソニー・ライフケア
ライフケアデザイン株式会社	ライフケアデザイン
プラウドライフ株式会社	プラウドライフ
ソニーフィナンシャルベンチャーズ株式会社	ソニーフィナンシャルベンチャーズ
ソニーグループ株式会社	ソニーグループ（株）

見直しに関する注意事項：

本誌に記載されている、SFGの現在の計画、見直し、戦略、確信などのうち、過去の事実でないものは、将来の業績に関する見直しや試算であり、現在入手可能な情報から得られたSFGの経営者の仮定、決定ならびに判断に基づいています。実際の業績は、多くの重要なリスクや不確実な要素により、これら業績見直しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見直しのみで全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、SFGが将来の見直しや試算を見直して改訂するとは限りません。SFGはそのような義務を負いません。

- 本誌に記載されているSFGIの連結業績は、日本の会計基準に準拠して作成しており、その会計基準は、SFGIの親会社であるソニーグループ（株）が開示する連結業績の準拠する国際財務報告基準とは異なります。
- SFGIは、SFGIと、その傘下のソニー生命、ソニー損保、ソニー銀行、ソニー・ライフケア、ソニーフィナンシャルベンチャーズならびにその子会社および関連会社から構成される金融サービスグループを指します。
- 本誌に掲載されている金額は、特に記載のない限り、数値は表示単位未満は切捨て、比率や増減率は四捨五入で表示しています。
- 「ライフプランナー」はソニー生命の登録商標です。その他、本誌に掲載されている会社名・商品名は、各社の商標または登録商標です。



ソニーフィナンシャルグループ ビジョン・バリュー

ビジョン | 目指す姿

心豊かに暮らせる社会を目指し、
人に寄り添う力とテクノロジーの力で、
一人ひとりの安心と夢を支える金融グループになる

バリュー | 価値観

お客さま本位	お客さまの真のニーズを探知し、期待を超える商品・サービスを提供する
独自性	自由闊達な企業風土のもと、いきいきと働き、私たちならではの価値を追求する
夢と好奇心	夢と好奇心から、未来を拓く
多様性	多様な人、異なる視点がより良いものをつくる
高潔さと誠実さ	倫理的で責任ある行動により、ソニーブランドへの信頼に応える
持続可能性	規律ある事業活動で、ステークホルダーへの責任を果たす

Sony's Purpose & Values

https://www.sony.com/ja/SonyInfo/CorporateInfo/purpose_and_values/

既存の枠にとらわれず 新たな金融事業を生み出していく

ソニーフィナンシャルグループは、ソニーグループ（株）がつくった金融サービスグループです。「人のやらないことをやる」というソニースピリットを原動力に、既存の金融機関が満たしきれていないニーズに応える新しいビジネスモデルで、業界の常識に挑んできました。ソニーグループにおけるコア事業のひとつとして、これからも「お客さまのために」を追求することで最高のサービスを提供し、広く社会に貢献してまいります。



生命保険事業

ソニー生命

金融グループの中核事業です。保険・金融のプロフェッショナルである「ライフプランナー」が、お客さまの描くライフプランに応じた保障プランをオーダーメイドで設計します。

- 設立：1979年（昭和54年）8月10日
- 代表者：代表取締役社長 高橋 薫
- 資本金：70,000百万円

他のグループ会社（生命保険の募集に関する業務）
ソニーライフ・コミュニケーションズ株式会社

損害保険事業

ソニー損保

ダイレクト保険のリーディングカンパニーとして、自動車保険、火災保険などにおいて、お客さまニーズに合わせた高品質な商品やサービスを提供しています。

- 設立：1998年（平成10年）6月10日
- 代表者：代表取締役社長 坪田 博行
- 資本金：20,000百万円

銀行事業

ソニー銀行

個人のお客さまを対象に、質と利便性の高い金融商品・サービスを提供するインターネット銀行です。

- 設立：2001年（平成13年）4月2日
- 代表者：代表取締役社長 南 啓二
- 資本金：38,500百万円

他のグループ会社（クレジットカード決済事業）
ソニーペイメントサービス株式会社
ETCソリューションズ株式会社
SmartLink Network Hong Kong Limited

介護事業

ソニー・ライフケア

ご利用者のこれまでの人生とこれからの生活を第一に考える介護サービスを提供しています。

- 設立：2014年（平成26年）4月1日
- 代表者：代表取締役社長 出井 学
- 資本金：2,625百万円

他のグループ会社（有料老人ホームの企画・管理・運営等）
ライフケアデザイン株式会社
プラウドライフ株式会社

ベンチャーキャピタル事業

ソニーフィナンシャルベンチャーズ

フィンテックなどに独自の強みを持つベンチャー企業に投資しています。

- 設立：2018年（平成30年）7月10日
- 代表者：代表取締役社長 遠藤 俊英
- 資本金：10百万円

グループのあゆみ

1979年

「ソニー・ブルーデンシャル生命保険株式会社」（現 ソニー生命保険（株））設立

1998年

「ソニーインシュアランスプランニング株式会社」（現 ソニー損害保険（株））設立

2001年

「ソニー銀行株式会社」設立

2004年

「ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社（以下、SFH）」設立（2007年東京証券取引所市場第一部上場）

2014年

「ソニー・ライフケア株式会社」設立

2018年

「ソニーフィナンシャルベンチャーズ株式会社」設立

2020年

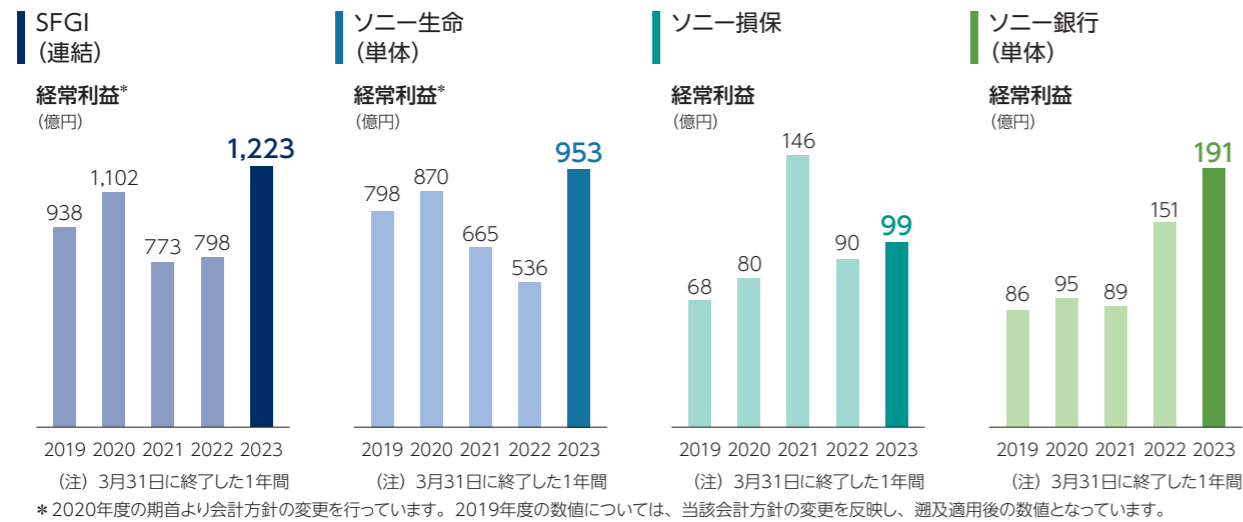
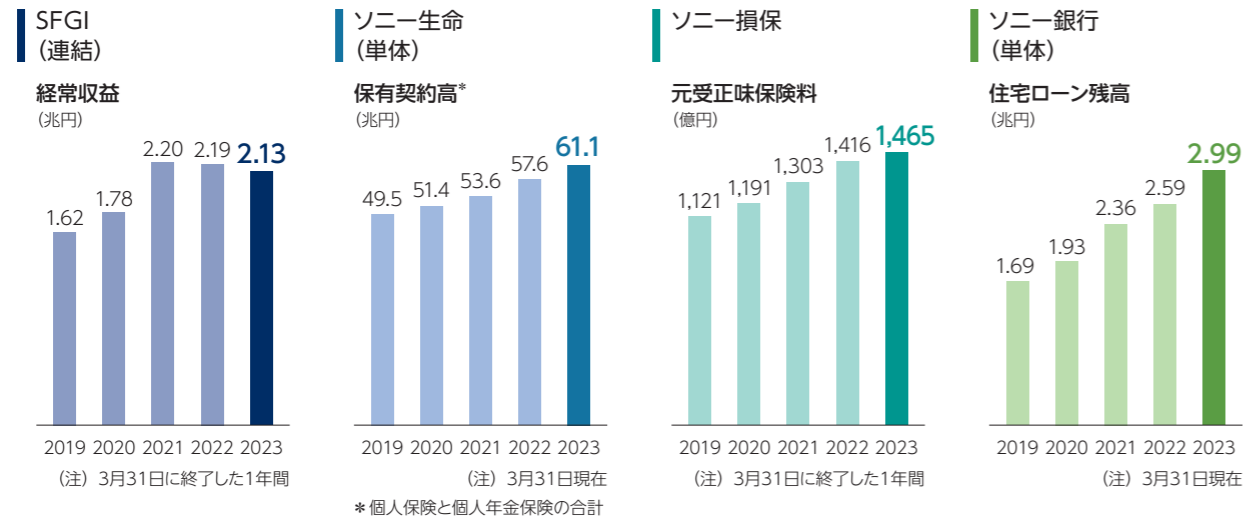
ソニーグループ（株）によるSFH完全子会社化（東京証券取引所におけるSFH株式の上場廃止）

2021年

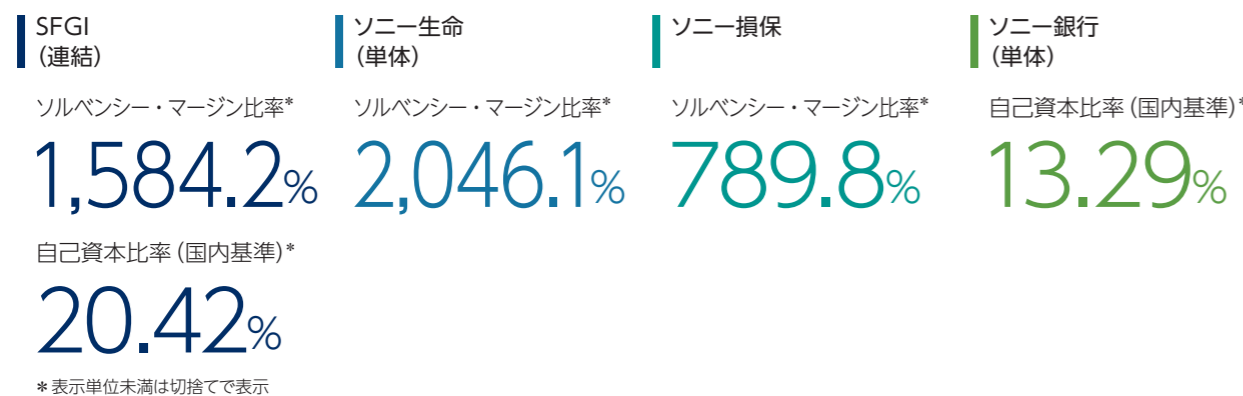
持株会社の社名を「ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社」から「ソニーフィナンシャルグループ株式会社」に変更

財務ハイライト

収益性指標



健全性指標 (2023年3月31日現在)



(注) ソニー生命は、2021年4月1日付でソニー生命を吸収合併存続会社、ソニーライフ・ウィズ生命を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行いました。ソニー生命の2021年度の単体業績は、当該吸収合併を反映した業績ですが、比較年度である2020年度以前の単体業績は、ソニーライフ・ウィズ生命の業績を含めておりません。

格付情報 (2023年7月1日現在)

格付会社	SFGI	ソニー生命	ソニー銀行
格付投資情報センター (R&I)	発行体格付 AA-	保険金支払能力格付 AA	—
日本格付研究所 (JCR)	—	—	長期発行体格付 AA
S&Pグローバル・レーティング・ジャパン (S&P)	—	保険財務力格付 A+	カウンターパーティ格付 長期 A 短期 A-1

非財務ハイライト

従業員数*1

SFG 12,596名

SFGI	151名
生命保険事業	9,225名
損害保険事業	1,525名
銀行事業	757名

(注) 2023年3月31日現在

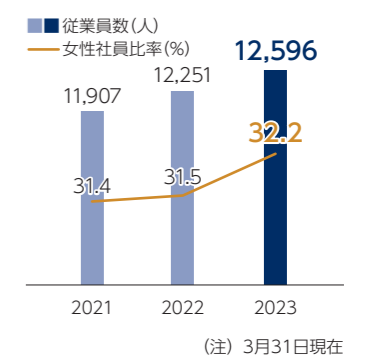
▶P44 会社概要

*1 SFGI、主要3子会社および介護事業3社
*2 正規社員自己都合退職のみ

従業員基本データ*1

	2021年度	2022年度
平均勤続年数	9.4年	9.3年
採用数	男性 884名 女性 556名 全体 1,440名	男性 821名 女性 666名 全体 1,487名
定年退職者数	117名	14名
再雇用者数	144名	148名
離職率*2	男性 6.2% 女性 9.0% 全体 6.9%	

従業員数に占める女性社員の割合*1



ライフプランナー数

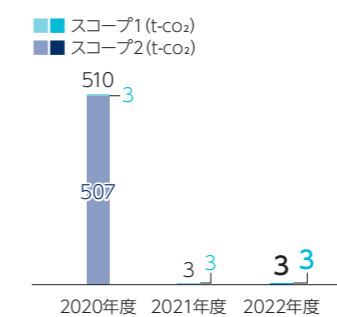
ソニー生命 5,402名 (注) 2023年3月31日現在

MDRT*会員数

ソニー生命 1,789名 (注) 2023年4月現在

*P110 「用語集」参照

GHG排出量 (スコープ1・2)



再生エネルギー率



▶P27 TCFD提言に沿った気候関連情報の開示 指標と目標

グループ一体での新たな価値創造を通じて、 心豊かに暮らせる社会の実現に貢献します



代表取締役社長 兼 CEO

遠藤 俊英

初めまして。2023年6月23日付でソニーフィナンシャルグループ株式会社（SFGI）の社長兼CEOに就任いたしました遠藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は長く大蔵省・金融庁に勤務し、2018年から2020年までの2年間、金融庁長官をつとめました。金融機関の健全性確保のための検査監督という従来からの業務に加え、金融機関が「持続可能なビジネスモデル」を構築できているかを理解するための「対話」を金融行政に導入しました。私自身も多くの金融機関とこうした「対話」を実践してまいりました。

2020年に役人の世界を卒業し、その後ソニーグループ株式会社（ソニーグループ（株））のシニアアドバイザーにつきました。シニアアドバイザーとして、ソニーフィナンシャルグループ（SFG）とさまざまな課題について議論できただけでなく、ソニーグループに属する他の事業体、R&Dセンターのエンジニアや研究者の皆さんと交流できたことは、私にとっては得難い経験でした。グループの持つクリエイティビティとテクノロジーの力をそじた方々との議論を通じて具体的に学ぶことができましたし、「人に近づく」ビジネスを次々に生み出していくソニーグループの“熱量”を感じとることができました。

ソニーグループの一翼を担うSFGは、「テクノロジーの力を駆使しつつ、人に寄り添う金融」を形にしようと努力しています。SFGが一体となって、新たな価値を創造し、人々が心豊かに暮らせる社会を実現できるよう、全力で取り組んでまいります。

ソニーフィナンシャルグループ(SFG)の位置づけ

SFGは、約40年前にスタートした生命保険事業を嚆矢として発展してきました。今やSFGは、生命保険・損害保険・銀行を中心に、介護事業やベンチャーキャピタルまで包摂する総合的な金融グループに成長しております。

ソニー生命は、ソニーの創業者の一人である盛田昭夫さんの夢を実現した会社です。ライフプランナーによる高品質のコンサルティング・ライフプランニングを強みとしています。ソニー損保、ソニー銀行は、ダイレクト/インターネット市場におけるネット金融の先駆的なプレーヤーとして、確固たる存在感を築き上げてきました。

社会経済が大きく動く中で、私たちのお客さまも変化しています。日本の総人口は減少に転じていますが、高齢者は増加しています。デジタルネイティブの若者世代は、環境問題や社会問題にも強い関心をもって行動するといった存在感を示しています。こうしたお客さまの態様、考え方、行動の変化を踏まえ、SFG自身も変化していかなければ、お客さまを起点とする「人に寄り添う金融」を続けていくことはできません。

今次中期経営計画の位置づけと進捗

私は、社会経済の変化を的確にとらえ、お客さまと正面から向き合える組織を作るためには、深化と探索を共に行う「両利きの経営」が必要だと考えています。そして、現在の中期経営計画（以下、中計）は、この「両利きの経営」を本格的に行うための土台を盤石なものにすべく練り上げられたものと理解しています。

前任の社長兼CEOの岡は、「心豊かに暮らせる社会を目指し、人に寄り添う力とテクノロジーの力で、一人ひとりの安心と夢を支える金融グループになる」というビジョンを改めて掲げ、「『自己変革』を通じた企業価値の最大化」を基本方針とした中計を策定し、推進してまいりました。

中計2年目にあたる2022年度は、金融・為替市場の急激な変動、繰り返される新型コロナウイルス感染の波、大規模な自然災害など、目まぐるしく変化する環境に遭遇しました。その中で、SFG各社は、中計の5つの戦略の柱と2つの追加重点施策の推進により、収益基盤の着実な拡大と企業価値の増大に取り組んでまいりました。詳細はP10以後に記述しますが、これら施策の主な進捗状況は次のとおりです。

〔5つの戦略の柱〕

第一の柱は、「コア・ユニークな競争優位性の徹底強化」です。

ソニー生命は、ライフプランナーが中小企業の良き相談相手となることで法人分野を伸長させています。個人分野では、新たな商品（変額個人年金保険「SOVANI」）を導入しました。これは、政府方針である国民の資産形成の増大に貢献する商品であり、お客さまの支持を得て販売好調です。ライフプランナーは、ライフプラン分析システムなどのテクノロジーも用いて「トータルライフプランニング」サービスを提供し、お客さまをきめ細かくサポートしてまいりました。お客さまとの信頼関係がさらに深まった結果、2022年度の新契約高・新契約年換算保険料は過去最高となり、ライフプランナー一人当たりの生産性は大幅に向上しています。

ソニー損保は、大規模自然災害の発生や事故件数の増加など、2022年度は厳しい環境下にありましたが、2023年度は自動車保険を中心に、商品性の改善やマーケティングの強化など各種施策を着実に実行し、ダイレクト損保市場における存在感をさらに高めてまいります。

ソニー銀行は、住宅ローンの金利競争が激化する中でその質を維持しつつ、大幅な円安を背景に外貨事業を伸ばしてまいりました。2023年度は、商品ラインアップや業務品質の向上などにより、住宅ローンビジネスの増強や外貨預金の訴求強化を図り、さらなる成長を目指します。

第二の柱は、「低金利に耐えうる収益構造への転換」（市況の変化に対するレジリエントな対応）です。

金融市場は、中計策定時の低金利状態から脱し、2022年度は急激な金利上昇も見られました。こうした不安定な市場環境に耐えうる収益構造の構築は引き続き重要な課題です。ソニー生命では、市場環境の変化を踏まえ、商品戦略の見直しや資産運用対象・手法の多様化、事業費率の改善を図っています。

第三の柱は、「お客さま目線経営のさらなる進化」です。

これまでもSFG各社は、サービス・商品の質にこだわり、お客さま本位の業務運営を徹底してまいりました。その結果、外部機関によるさまざまな顧客満足度調査では長年にわたりトップクラスの評価を頂いております。現中計期間には、顧客ロイヤリティの有益な指標とされるNPS[®]を活用し、SFG各社のベストプラクティスや知見・経験を共有することで、グループ全体で顧客体験（カスタマーエクスペリエンス）を向上させています。

* NPS[®] (Net Promoter Score) は、ベイン・アンド・カンパニー、フレッド・ライクヘルド、NICE Systems, Inc.の登録商標です。

第四の柱は、「テクノロジーによる競争力強化の加速」です。ソニー生命では、2022年10月に、最先端デジタル技術を駆使したライフプラン分析システム「GLiP」をリリースしました。ソニー損保では、ソニーグループのディープラーニング技術をマーケティングやプライシング、コールセンター業務などに活用し、お客さまへのサービス向上を図りました。AIを活用して運転特性を計測する「GOOD DRIVE アプリ」は全ドライバーへ無料提供しています。ソニー銀行では、ソニーグループの最新技術を活用したテレプレゼンスシステム「窓」による住宅ローンや資産運用のリモート相談を、大阪に続きソニーストア銀座でも開始しました。担当者が目の前にいるかのような臨場感の中で、多くのお客さまからのご相談を頂いています。

第五の柱は、「グループシナジーの最大化」です。ソニー生命のライフプランナーは、お客さまへの「トータルライフプランニング」をさらに充実すべく、ソニー損保の自動車保険や火災保険、ソニー銀行の住宅ローンの販売などをお客さまのニーズに適切に応える形で着実に伸ばしています。また、グループシナジーをさらに加速させるため、グループ横断のデータ連携基盤のシステム構築を計画通り進捗させています。中長期的には、ソニーグループの他事業との協業を通じ、ソニーグループの金融事業ならではの新たな価値創出を目指してまいります。

〔2つの追加重点施策〕

現中計の追加重点施策である「サステナビリティ推進」と「グループガバナンスの徹底強化」については、以下のとおりです。

「サステナビリティ推進」については、ソニーグループの長期環境計画「Road to Zero」を踏まえた気候変動問題への対応、ESG投資方針に基づく投資、ダイバーシティの推進やアクセシビリティの改善などの取組みを、グループ一体となって進めています。今後も、ソニーグループの一員としての社会的責任を果たすべく、サステナビリティ推進に一層注力します。

「グループガバナンスの徹底強化」については、持株会社として金融グループを統括するSFGIの役割・機能を強化し、グループ横断でコンプライアンス・リスク管理態勢の徹底、情報セキュリティ・ITガバナンスの高度化、監査機能の強化を継続的に推進しています。こうしたガバナンスを真に機能させるためには、SFG全体の良きカルチャーの涵養が必須だと認識し、お客さまを意識した組織内のコミュニケーションを活性化しています。それにより、お客さまからの揺るぎない信頼を確立してまいります。

ソニーフィナンシャルグループのさらなる成長と進化に向けて

2023年度は、現中計の総仕上げとともに、時代の大きな変化を踏まえたSFGのありたい姿を実現すべく、次期中計の策定を進めてまいります。これまで説明した現中計の各種施策により築かれつつあるSFGの安定的な収益性と高い企業価値の土台に立って、深化と探索の「両利きの経営」を本格的に展開してまいります。

足元の金融事業を取巻く環境は、金利や為替の急速な変動、欧米における金融不安など予断を許しません。さらに長期的な視点に立てば、少子高齢化の進展やデジタル化の加速など、不可逆的・構造的な潮流変化に直面しています。これまでお客さまとの揺るぎない信頼関係を築き上げてきたSFGは、これからもお客さまを起点に、さまざまな環境変化にしなやかに対応しつつ、さらなる成長と進化を実現してまいります。

ソニーグループ（株）は、2023年度 経営方針説明会において、SFGIの株式上場を前提としたパーシャル・スピンオフの検討を開始することを発表しました。これはSFGIにとって成長と進化を遂げる大きなチャンスです。この機をしっかりとらえ、集中的に議論し、将来のSFGの態勢基盤を構築してまいります。

ソニーグループの経営の方向性は「人に近づく」です。私は、ソニーグループの社員一人ひとりの背中をぐっと押してくれる、この簡にして要を得た経営の方向性が好きです。ひるがえって、SFGのグループ各社の日々の業務は、まさにお客さまに寄り添い、お客さまの安心と夢を支える活動です。SFGはこれからもよりよき金融サービスを追求・提供し、「心豊かに暮らせる社会」の実現を目指して全力で取り組んでまいります。

皆さまの引き続きのご支援を心よりお願い申し上げます。

